

# 静岡新聞夕刊

## 看護師、薬剤師「つながる会」活動について

### 機関、専門超え 医療高め合う

磐田市と森町の看護師、薬剤師の連携組織「つながる会」が、地域にある医療機関の相互理解を進める活動を強化している。発足2年目の今年は、施設間の研修や交流活動も活発化し、関係者は「幅広い医療現場を知って医療の質を高め、地域の患者の生活を支えたい」と意気込む。

同会は2015年4月、職員同士が顔の見える関係を築くことを目的に発足。現在は両市町の病院と訪問看護ステーション18施設の約40人が参加する。自治体の枠を超えた医療従事者の連携組織は全国的にも珍しいという。

15年度は磐田市立総合病院で各施設の現状を学ぶ研修や交流会を実施。16年度は活動場所を拡大し、精神科病院など医療現場4力所を視察する移動型研修に移行した。市立総合病院の佐藤明美看護師長(54)は「患者の医療ニーズは多様化している。自分が属する組織だけでなく、規模や診療科が異なる医療機関の活動を学ぶことが不可欠」と活動の意義を強調する。

### 磐田、森の看護師、薬剤師「つながる会」 研修や交流 成果じわり

各施設の看護師が別の施設で研修する交流事業を進める。12月上旬には、同市の新都市病院の看護師が市立総合病院の整形外科病棟で、患者への輸血や着衣をサポートしたり、看護師カンファレンス

に参加したりした。新都市病院の菊地直美さん(22)は「自分の病院では行わない治療や検査を間近で見ることができ、勉強になる」と話す。活動の成果も徐々に見え始めている。市立総合病院と同市のすずかけヘルスケアホスピタルは今年5月から、高齢の入院患者の誤嚥(ごえん)性肺炎の予防を目的に、福祉施設職員や市の保健師向けの講習会を展開。佐藤(磐田支局・池谷通子)は「つながる会を通じて各医療機関の交流が深まる」



磐田市立総合病院で研修する新都市病院の看護師(右)。「つながる会」を通じて各医療機関の交流が深まる。12月上旬



写真(左)は当院の4階西病棟 看護副師長 伊藤京子さん  
新都市病院の看護師が4階西病棟で1日研修を受けました。